

## 社団法人全国珠算学校連盟「創立 50 周年記念式典」報告

本連盟「創立50周年記念式典」が平成23年10月30日（日）名古屋「キャッスルプラザ」に於いて開催されました。第1部の上野健爾日本数学協会会長による記念講演に始まり、第2部の式典では、町村信孝名誉会長、橋本聖子参議院議員、文部科学省生涯学習政策局の板東久美子局長はじめ、珠算教育団体代表、中華民国友好団体代表、事業協力企業代表など多数のご来賓のご臨席のもと、厳粛な中、盛大に挙行されました。また、第3部の祝宴でも、長谷川岳参議院議員、王宗忱中華民国珠心算数協会会長からのご祝辞から、来賓と連盟役員による鏡開きと進み、華やかで、また和やかな雰囲気の中、万歳三唱まで滞りなく執り行われました。式典では、20年以上の在籍者の表彰もありその名簿等も配布されておりますので、その内容ほか式典の一部を以下ご報告いたします。



挨拶する吉田松雄会長



祝辞を述べられる町村信孝衆議院議員・名誉会長



式典開式の挨拶



君が代斉唱



式典第1部「上野健爾 京都大学名誉教授記念講演」



鏡開きから第3部祝宴開宴

## 社団法人 全国珠算学校連盟 創立 50 周年記念式典

平成23年10月30日(日) 午後1:00～5:00 於:名古屋「キャッスルプラザ」4F鳳凰の園

≪ 式 次 第 ≫

(司会 上田美鈴)

### 第1部 記念講演 午後1:00～2:10

開演のことば 大島 弘道 副会長  
 講 師 上野 健爾 京都大学名誉教授・日本数学協会会長  
 講演テーマ 「珠算の将来～塵劫記に学ぶ」  
 閉演のことば 木谷 建一 常務理事

### 第2部 記念式典 午後2:20～3:20

開式のことば 山中 幸二 副会長  
 君が代斉唱  
 物故者黙祷  
 会長式辞 吉田松雄 会長  
 来賓祝辞 衆議院議員(社団法人全国珠算学校連盟名誉会長) 町村 信孝 様  
 参議院議員 橋本 聖子 様  
 文部科学省生涯学習政策局 局長 板東久美子 様  
 全国珠算教育団体連合会 会長 梶川 眞秀 様  
 全国専修学校各種学校総連合会 会長 中込 三郎 様

来賓ご紹介

祝電披露

感謝状・表彰状贈呈

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 1. 特別表彰 自民党総裁感謝状贈呈 代表          | 山中 幸二 殿  |
| 2. 国際協力感謝状贈呈 中華民国珠心算数学協会会長     | 王 宗忱 殿   |
| 3. 珠算教育振興事業協力感謝状贈呈 全国珠算教育連盟理事長 | 梶川 眞秀 殿  |
| 日本珠算連盟理事長                      | 森田 悦男 殿  |
| 4. 事業協力感謝状贈呈 株式会社ツーンネット代表取締役   | 石井 孝幸 殿  |
| 5. 役職功勞表彰 代表                   | 木下 紀久男 殿 |
| 6. 物故役職者功勞表彰 代表                | 河村 嘉洋 殿  |
| 6. 永年在籍表彰 代表                   | 寺尾 利光 殿  |

受章者代表謝辞

寺尾 利光 殿

閉式のことば 大島 弘道 副会長

### 第3部 祝宴 午後3:30～5:00

開宴のことば 岡田 良章 常務理事  
 ご挨拶 吉田 松雄 会長  
 来賓祝辞 参議院議員 長谷川 岳 様  
 中華民国珠心算数協会 会長 王 宗忱 様  
 鏡開き・乾杯 日本珠算連盟 理事長 森田 悦男 様  
 万歳三唱 林 大治郎 副会長  
 閉宴のことば 横須賀長次 常務理事

## 創立50周年記念式典 来賓ご臨席ご芳名

(敬称略・順不同)

団体名等	役職名	ご芳名
衆議院議員	連盟名誉会長	町村信孝
参議院議員		橋本聖子
参議院議員		長谷川岳
文部科学省生涯学習政策局	局長	板東久美子
	専修学校教育振興室 室長補佐	佐藤秀雄
自由民主党本部	組織運動本部	鮫島啓子
関孝和数学研究所	所長・京都大学名誉教授	上野健爾
中華民国珠心算数学協会	会長	王宗忱
	国際公共関係主任	呉偉嘉
	翻訳者(通訳)	呂佩穎
全国専修学校各種学校総連合会	会長	中込三郎
社団法人全国珠算教育連盟	理事 会長	梶川眞秀
	事務局 会長	佐藤郁男
日本珠算連盟	理事 会長	森田悦男
	副理事 会長	西博三
	事務局 会長	曾本尚
全国算数能力検定作問委員	成城学園初等学校教諭	島田功
東大阪珠算協会	会長	山根正司
	副会長	巽禎三
一般社団法人東京珠算教育連盟	副理事 会長	菅野明
株式会社朝日プリント社	代表取締役社長	山田俊文
三貢工芸株式会社	代表取締役社長	松山好延
暁出版株式会社	代表取締役社長	鈴村芳彦
トモエ算盤株式会社	代表取締役社長	藤本トモエ
佐藤出版株式会社	代表取締役社長	佐藤幸夫
株式会社ツーンネット	代表取締役社長	石井孝幸
SUN経営税理士法人	副所長・税理士	中島基泰

## 来賓祝辞

### 衆議院議員・名誉会長 町村信孝先生 祝辞

今日は社団法人全国珠算学校連盟創立50周年記念の式典が、この様に全国各地から関係者の皆さんご出席のもと盛大に開催をされますことを心からお祝いを申し上げます。

創立50周年の歴史を吉田会長が振り返っておられましたが大変な御努力がそれぞれの時期にあったと思います。そうしたご努力の上に全国珠算学校連盟の発展があり、皆さん方の御努力に心から敬意を表します。珠算は日本の伝統文化であり、500年余の歴史があると聞いております。そのなかで日本人に培われた計算能力あるいは暗算能力、これはやはり世界に誇るべきものではないかと受け止めています。

学生時代、アメリカに留学中、たまたまスーパーマーケットに行ったら何か物を買った際、例えば、1ドル札を出して67セントの物でお釣りが33セント。僕らはバット33と出てきますが、アメリカのレジの人達は違うんですね。67に3を足して70、まず3セント出して、それに25セントのコインを足して28になり、それにあと5セントの硬貨を足して33セントと、そうやって引き算というより足し算をして1ドルに到達します。また時々間違えるので、得するときは黙っていましたが、損した時は「違よ」と言ってちゃんとお釣りを貰うという、そんな経験をしたことを今でも覚えております。たまたまそのレジの人の出来が悪いのかと思ったら、ほとんど暗算が出来ない。何故日本人は出来るのかというと、矢張りそろばんのお蔭ではないでしょうか。

先程、吉田会長と話していたのですが、小学校時代、昭和30年代前半ですが、学校でそろばんはあったかなと言ったら、当然やっているはずと、厳しい顔をされましたが、正直言うとおぼろげな記憶がないのです。そこで板東生涯学習局長が、町村さんは多分学芸大附属で特別な実験校だったから無かったのかもしれないと、助け船を出していただきました。そろばんをやった記憶が無いにしても 100-67程度の暗算は出来る訳で、それは矢張りそろばんを通じてほとんどすべての日本の国民が身に付けているのではないかと思います。ある時、全国大会を名古屋で拝見する機会があり目を見張りました。とても人間わざと思えないフラッシュ暗算の素晴らしいなどを見て人間の頭脳は精神を統一して懸命にやれば、この様なことが出来るという大変な驚きを感じたことを今でもよく覚えております。

ぜひそうした能力を一人でも多くの子供たちに身に付けてもらい、暗算でお釣りの計算が出来るという以上に、やっぱり基礎教育のまた基礎なのではないかと思います。そういう意味でもこれからますます珠算教育が学校教育の場であれ、あるいは珠算学校の場合、より広く普及することを心から期待しますし、また貴連盟そして加盟各校の皆様方の一層のご繁栄、また今日、参加された方々のご健勝をお祈りしまして、一言お祝いの言葉といたします。誠に創立50周年おめでとうございました。



町村信孝名誉会長

### 参議院議員 橋本聖子先生 祝辞

本日は、珠算学校連盟50周年誠にありがとうございます。この様な御挨拶の機会をいただきありがとうございます。吉田会長はじめ、皆様方の日頃からの教育に対する温かいご尽力に心からの敬意と、そして感謝を申し上げます。本当に有難うございます。

今日は折角の機会だと思い、上野先生の講演を聴かせていただきました。難しい話でもありましたが、大変勉強になりました。やはり基本は大切なのだということが私の心にしっかりと刻まれました。私はずっとスポーツに携わってきまして、スポーツの基本は『心・技・体』ですが、教育では、先程、町村先生のお話にもありましたように『読み・書き・そろばん』が全てにおいて基本の中の基本であると思います。私は、北海道の苫小牧近郊の安平町で生まれ育ちました。実家が大変な山奥のため、学校でそろばんを習う前に、家で様々なことを教わりました。小さいころからそろばんを父に教えてもらい、それが大変大きな基礎になったと今でも思います。

7年くらい前だったと思いますが、犬山市で行われた講演会に吉田会長にお声をかけていただき、そろばんについてとかいうよりもスポーツについての講演をさせていただきました。今、私の上の子が小学校5年生になりますが、その子が幼稚園に通ってました。5色のカラフルでかわいいそろばんをお土産にと会長からいただいて帰ったのです。それが楽しいおもちゃに変わり、そこですぐに『読み・書き・そろばん』を思い出して、こういう小さい時からやらせるといいかなと思いついて、早速麹町の珠算塾に通わせました。今は私よりはるかに計算が早く、来年6年生で中学に上がるまでにはなんとか3級を取ろうと頑張っているところですが、お陰様で、想像力・発想力が違うなど感じています。小学校1年生と幼稚園の息子二人にも、今珠算を習わせているところですが、そうした小さいころから珠算教育を受けることが、いかに人間の想像力を、そしてまた人間の幅を広げるということを 親としても実感している処です。こういった教育が隔々にまで行き渡る、そういう学校教育にしていこうと日本の本当の意味での基礎教育、人材育成に繋がりがこの国の大きな礎になるということを改めて感じながら、これからも吉田会長はじめ、珠算学校連盟の皆様方のお手伝いをさせていただきたいと思っていますところでありたい。

ますますのご発展と 皆様方のご健康をご祈念申し上げてお祝いに代えさせていただきます。誠に本日はおめでとうございました。



橋本聖子衆議院議員

### 文部科学省 生涯学習政策局長 板東久美子様 祝辞

本日は全国珠算学校連盟の創立50周年、半世紀を迎えられたということ、そして多くの来賓の皆様のご参加の中、この会が開かれておりますことを心からお慶びを申し上げたいと存じます。最初にお祝いの言葉を申し上げる前に、先程お話しがございました東日本大震災で犠牲になられ、あるいは被害を受けられた方々、その中には珠算学校の関係者の方々もおいでになると聞きをしておりますが、改めて哀悼とお見舞いの気持ちをお伝えさせていただきますと存じます。東日本大震災ではいろいろな苦難困難があった訳でございますが、改めて日本人の誇るべき資質なり人間力ということ、あるいは長い間に培われてきた伝統文化に支えられた日本人としての力、姿勢というものが国際的にも大変評価をされた訳でございます。先程、珠算は日本の伝統文化であるというお話がございましたが、まさにこういった長い間の伝統的な学びの中で、高められ、培われてきたものの力の大きさということが、いま再認識をされているのではないかと思います。そうした学びを核として、これから被災地だけでなく我が国全体を再生していくということが、非常に重要ではないかと思っております。そのなかでも珠算については、先ほどからお話しがございましたように、まさに数的な能力の基礎になる、いろいろな科学的な創造力の基礎になると言うことだけでなく、たとえば集中力を養うことができるか、あるいは目標に対して努力をし、力を高めていく姿勢を作り上げていくとか、そういった様々な人間の力を養っていく上でも、非常に大きな役割を果たしてきているのではないかと、最近、改めて珠算教育の力が見直しをされているのではないかと存じます。

今年から小学校におきまして新しい学習指導要領がスタートいたしました。先程の吉田会長のお話のように、これまでの授業時間数が少なくなったところを、改めて珠算教育の重要性が認識され時間数が増え、学年も3・4年生と増えてきております。これを支えておられます多くの珠算学校の皆様のおかげに、改めて敬意と感謝を申し上げますと共に、子どもたちがその基礎的な力をしっかり育てていくことに一層のお力をいただければありがたいと思っております。

この珠算学校連盟は50年の歴史の中で、関係者が、教育の質を一層高めるために研究会や講習会などを開いて努力をされており、先程もお話ございましたように、一人ひとりの生徒が目標を持って力を高める努力をし、またその成果が評価できるようにと、検定事業も実施して求られました。生涯学習の観点からも、生涯にわたり様々な学びがあることと共に関係者がしっかりと評価をされて、そして社会に活用されていくことが重要だと思っております。そうした面からも連盟として大変努力をされていることに対して本当に心から感謝を申し上げたいと思っております。これからの社会はますます学びというものが大変重要になる社会でございます。そういう中で、これから子どもたち、あるいは大人も含めて力を高め、社会全体が活力を持ち、発展、再生が出来ますように、本当に皆様のお力が、この新しいステージに向けて大きく結果されますことを、心からお祈りを申し上げまして御挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございました。



板東久美子  
文部科学省  
生涯学習政策局長

### 全国珠算教育団体連合会会長 梶川眞秀様 祝辞

本日は学連創立50周年記念式典おめでとうございました。

また、本日はお招きをいただきありがとうございます。

さて、ここ最近では、珠算が全国的に力強く復活を遂げています。これは、珠算や暗算の検定受験者が、右肩上がりに増加していることでも証明されています。児童数が減少する中で、「読み書きそろばん」が基礎学力に必要なものと社会から見直されている結果とも言えます。今年度から4年生の教科書にもそろばん学習が復活いたしました。これは基礎教育にそろばんが必要不可欠なものと立証されたものです。

先日、全国珠算連合として中川正春文部科学大臣を表敬訪問し、「初等教育における珠算教育の更なる強化」について、次のような要望書を提出して参りました。

1、小学校初等教育カリキュラムの中で、現行の3・4年生から、2年生から4年生まで連続して指導がされるよう小学校学習指導要領における珠算教育の強化

2、小学校現職教員の珠算指導研修の実施と珠算人のボランティア講師派遣に係る実費の助成

3、大学における教員養成課程及び教員十年更新講習に珠算指導法の履修の導入

前回の平成14年の指導要領改正におきましては、小学4年生から珠算学習が削除された苦い思い出があります。今回の指導要領改正においては、4年生に珠算学習が復活しましたが掛け算や割り算は復活しませんでした。

我々珠算連合は、次期指導要領改正の為に運動を開始しています。今後も、連合として珠算教育の普及発展に3団体のご協力を得ながら積極的に取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、全球学連創立50周年は、歴代会長や役員並びに会員の皆さま方の献身的なご尽力によるものです。特に、情報化時代の波によるそろばん離れの風潮や、児童数の減少に直面しても、果敢に乗り越えられた皆さま方に敬意を表しますとともに、今までご貢献をいただきながら故人になられた諸先生方のご冥福を心からお祈り申し上げます。

連盟の今後のご発展をお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

### 全国専修学校各種学校総連合会 会長 中込三郎様 祝辞

本日は社団法人全国珠算学校連盟創立50周年誠にありがとうございます。

近年は情報化社会の進展に伴い、学習ツールの近代化・デジタル化が急速に進み、昔と比べて子供達の学習風景は随分と様変わりしました。

しかし、パーソナルコンピュータや電卓など電子計算機器が広く普及しているなかであっても、自動計算システムに頼ることなく、自分で問題を読み解き、指先を動かしながら回答を導き、記述する力を養うことは、子供達の考える力や発想力の育成につながるものです。これら一連の学習行程、つまり昔ながらの「読み・書き・そろばん」は時代がどのように移り変わろうとも、教育の原点であると考えます。特に、珠算（そろばん）は我が国に欠かせない教育機器として、戦後の産業・経済の発展に大きく貢献するとともに、地域社会に根付いた教育分野として、現在も全国各地で青少年の計算能力の発達に大いに役立っております。これらの意義を教育行政の方々には是非ご理解いただき、今後、各学校の教育カリキュラムの中で珠算の授業を増やしていくようご検討いただければ幸いです。

貴連盟は珠算教育の全国団体として、その普及推進に力を注ぐとともに、全専各連発足当時より、組織の重要な柱としてその役割を果たしてこられました。現在も吉田会長を中心に会員の皆様が一丸となって、活発な事業を展開されており、今後もその活躍を期待しております。

全専各連も我が国の職業教育の振興、専修学校及び各種学校の地位向上に向けて様々な課題へ取り組んでおります。今後も、貴連盟とともに、我が国の教育発展に向けてより一層邁進していくとともに、公的教育機関としての社会的責務を果たしていく所存でありますので、皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

最後に、本式典開催にご尽力されました関係各位に対し深く敬意を表しますとともに、貴連盟の今後ますますの発展を祈念申し上げます。あいさつの言葉とさせていただきます。



梶川眞秀  
全国珠算教育  
団体連合会会長



中込三郎  
全国専修学校各種  
学校総連合会会長

表彰者受章写真



表彰式会場風景



町村名誉会長より特別表彰を受け取る山中副会長



国際協力感謝状が王会長へ



珠算教育振興感謝状が全珠連梶川理事長・日珠連森田理事長へ



事業協力表彰代表 (株) ツーネット石井社長



役職者表彰代表 木下常務理事



永年在籍表彰者代表 寺尾利光元愛知県支部長



来賓と愛知県支部の方々

社団法人 全国珠算学校連盟 創立50周年記念 表彰者名簿
------------------------------

(敬称略・順不同)

## ◇国際協力感謝状 贈呈

中華民國珠心算数学協会	会	長	王	宗	忱
-------------	---	---	---	---	---

## ◇珠算教育振興事業協力感謝状 贈呈

社団法人全国珠算教育連盟	理	事	長	梶	川	眞	秀
日本珠算連盟	理	事	長	森	田	悦	男

## ◇事業協力感謝状 贈呈

株式会社朝日プリント社	代表取締役社長	山	田	俊	文
三貢工芸株式会社	代表取締役社長	松	山	好	延
暁出版株式会社	代表取締役社長	鈴	村	芳	彦
トモエ算盤株式会社	代表取締役社長	藤	本	トモエ	
佐藤出版株式会社	代表取締役社長	佐	藤	幸	夫
株式会社ツーンネット	代表取締役社長	石	井	孝	幸
全国算数能力検定作問委員	成城学園初等学校教諭	島	田		功

## ◇世界珠算選手権大会出場選手表彰

宮	城	県	土	屋	宏	明
宮	城	県	勝	又	美	貴

## ◇役職功勞表彰

吉	田	松	雄	山	中	幸	二	大	島	弘	道
林	大	治	郎	木	下	紀	久	岡	田	良	章
木	谷	建	一	横	須	賀	長	白	岩	晋	吾
古	川	侃	司	木	村		弘	武	藤	嘉	之
岡	野	英	也	立	木		博	須	山		勇
本	田	豊	子	坪	内	孝	満	三	野	剛	護
吉	江	国	雄								

## ◇役職功勞（物故会長・副会長）表彰

旦	尾	広	高	野	勇	次	郎	河	村	洋
西	田	實	白	岩			博			

## ◇実務功勞表彰

木	村	菊	郎	佐	野	和	子
---	---	---	---	---	---	---	---

## 祝宴風景写真

式典第3部、華やかな祝宴の様子です。長谷川先生、王宗忱会長からのご祝辞のあと、森田悦男日本珠算連盟理事長の乾杯の音頭でスタート。



お祝いの挨拶をされる長谷川岳先生

## 参議院議員 長谷川岳 先生 祝辞

社団法人全国珠算学校連盟様が創立50周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

吉田理事長様はじめご関係の皆様、珠算を通じた教育に対する並々ならぬ情熱とご尽力に対しまして深く敬意を表します。

私の親族も名古屋市北区でそろばん塾を二つ経営しています。核家族化や少子高齢社会が進み、大きく変動する社会情勢の中、急速に発展してきたITや電子化の流れに巻き込まれることなく、江戸の昔より大切に継承されてきた日本の「読み・書き・そろばん」をしっかり身につけることが、基礎的学力向上の支えとなり、想像力を持つ人間を創り出すことにつながると思います。

貴連盟の五十年の伝統とその経験や知識に裏付けられた珠算教育がますます発展され地域社会へも貢献されますことを期待しています。本日は、誠におめでとうございます。



森田日珠連理事長による乾杯の音頭



鏡開きの瞬間



祝宴風景



万歳三唱（林副会長）

連盟創立50周年を機に、永年在籍者の表彰を行いました。以下に、20年以上永年在籍表彰者名簿を掲載します。

創立50周年記念 20年以上永年在籍表彰者名簿

(○印は50年在籍、敬称略・順不同)

- ◇北海道 吉田 松雄 加藤 雅子 山中 博詞 滝本 寿幸 大畑 典子 島田 緑 山崎 里美 栗原 寛隆 本間真知子  
小林久美子 板谷 朗 佐々木 隆 堤 禮子 小林みどり 及川 房子 鈴木 明美 森山富美恵 菅野 京子  
松本千栄子 江尻由美子
- ◇青森県 阿部 伸一 伊藤 敏弘 濱田 玲子 丹代 秀子 阿部 正治 松野 陽子 堅田千喜美 荒川ちた子 中屋敷 晃
- ◇岩手県 及川 實 谷地敬公 及川 幸子
- ◇宮城県 木曾 賢一 林 大治郎 今野 正 高橋 輝男 後藤 勝則 大橋 克弘 須藤 統夫 鈴木つや子 小野 政喜  
新貝カツ子 村上歌代子 鈴木 豊
- ◇秋田県 田口 敏夫 佐藤 幸助 刈田 彬 山代 咲子 武田 芳子 半田美代子 星川あき子
- ◇福島県 三富 邦基 三富 和子 大方助左エ門 鈴木喜代美 遠藤イエ子 折笠ゆかり 赤松 邦弘
- ◇茨城県 山中 幸二 金子 健二 竹内かほる 香取 暎子 飯塚美智子 小泉 淳子 鈴木 広子 川崎 和江 澤田 舞美  
桜井ミチエ 柏崎多美子 羽富 幸子
- ◇栃木県 内藤 幸子 大塚アイ子 石河 郁子 久保 満子 大木 清 塩生 良江 河又 弘子 佐手 恵一 亀和田公一  
半田美知夫 鈴木 一雄 林 郁子 熊坂千代子 横須賀長次 福田シゲ子
- ◇群馬県 岩原 勝 塚越ひろみ 牧野 和子 茂木いく子 松村あい子
- ◇埼玉県 久保 修治 佐々木和子 佐藤 ミエ 新井 勉 田中 光良 中田 明 福島 秀子 松岡 富子 峯岸 誠  
武藤 嘉之
- ◇千葉県 石田しのぶ 岩田 全弘 恩田 八郎 國藤 秀美 佐藤 武 佐藤 太郎 鈴木 啓一 関 知枝 鳥居 正子  
早川 典秀 早川 史恵 林 綾子 宮本 静枝 横張 かつ
- ◇東京都 岡野 英也 鈴木 康正 木原辰次郎 青谷 武一 渡辺 攝宣 田上千鶴子 柳澤 忠重 吉田 政美 廣村 隆仁  
橋本 一男 飯山 晶子 荒木 裕子 佐藤スズヨ 西村 和子 瀧澤 浩一 山田 信之 三田 悦子 清水美津江  
増田ふみ子 小菅佳世子 堀野 晃 穂田 恵美子 徳田 幸子 矢崎 幸子 小林 誠男 櫛 千代子 片貝とみ子
- ◇神奈川県 川又 義夫 宮崎 健 佐々木幸子 高山 和子 内田 玲子 山下 嘉江 佐藤 幸代 関根 裕子 秋田 幸  
竹中 翠
- ◇山梨県 有賀 三治 長谷部和子 緑川 初子 篠原 左東
- ◇長野県 北原 光子 ○保高 保之 刈間せつ子 宮坂 文雄 守屋 雪香 上條 靖子 渡辺 弘美 盛田 早苗 三村 睦雄
- ◇新潟県 高橋 貞子 高橋八恵美 田村 久子 荒木伊佐雄 岩崎 昭作 岩崎 昭夫 木村 圭一 中沢 秀一 高林 清  
木下紀久男 長田 義男 馬場 修
- ◇富山県 小泉信太郎 清水 健二 川田 芳春 沖 知枝子 加藤 清美 鍛冶 淳子
- ◇福井県 藤井 重昭
- ◇岐阜県 大石健太郎 立木 博 水谷 守男 大野 二巧 林 昭人 中谷 忠雄 ○喜多村康雄 ○太田 政江 橋本 政慶
- ◇静岡県 深澤 剛 吉川 義弘 笹本 伎佐 白岩 晋吾 夏目 端 沢野 基司 芹沢智津子 岡 容子 大村躬東里  
佐川 和子 後藤 一 宮島 麻子 鳥井 とめ 野元 輝子 福垣 寿子 清水久美子 太田ひとみ 須山 勇  
大城 国雄 山本 恭伸 新木 幸子
- ◇愛知県 ○寺尾 利光 梅村 朋光 横江 明 鈴木 直光 ○竹内 彌市 高島 英二 立松智恵子 伊藤 輝幸 ○東 日出子  
東元 早苗 山内 詔治 松山 啓子 ○堀田 光雄 山岸 正治 ○中村 元二 谷口 利博 鈴木美智代 山本とよ子  
斎藤 充 ○長田 義雄 大滝 徹 ○坂本 清七 古林 晴美
- ◇三重県 中井 喜男 森川 千明 平澤 論
- ◇京都府 津畑 吉洋 島木 隆二 伊藤 清子 岡井テル子
- ◇大阪府 木村 弘 丸野 務 村尾 勝 山本 裕子 榎園 一宏 林 恵子 中川 早苗 河村 進 河村 嘉洋  
灘 國一 今西 信洋 渡辺 正一 井上ヨシ子 嶽 不二 辻 寛 土井 和枝 北山 悦司 坂江賀代子  
和田 憲三 川岸 節子 田中 章子 川尻 賢治 梅田 章雄 梅田 忠則 井宮きぬ子 岡田 良章 岡田 隆資  
森川 絃子 山根 正司 大村 武
- ◇兵庫県 山岡 一幸 秋田 新策 村上 和美 本田 豊子 西谷みき子 萩尾 敏子 長瀬 美春 蓮井慶太郎 中山喜美代  
芝床 栄子 岡本 和子
- ◇奈良県 中村 宮子 小西豊三郎 岩田日出子
- ◇和歌山県 大矢 敬 米川 正夫 藤本 淨 西 英臣 堺 順子 西村堪二郎 山本 泰弘 川西富美子 湯川 恭生  
田中 従夫 川端 内次 西本 典生 大艸ヨシ子 近藤 祐子 南 和美 中島 歌子 岡本 準 藤井登三子  
武田 尚子 松間知佐子 田辺 香
- ◇鳥取県 井上 清 倉橋 玉枝 三浦 恵子
- ◇島根県 坪内 孝満 長谷川幸子 熊澤 好弘 池田 紘一
- ◇香川県 三野 剛護 竹本 清 久米 雅弘 藤井 栄 堀田 清 井上 賢次 秋山 益美 庄野 弘子
- ◇福岡県 永田恵美子 吉江マサ子 吉江 国雄 堀内ユキ子 今村 幸美 中村 好子 宇都宮勝則 國永 勝子
- ◇佐賀県 合田 和則 松江 初枝
- ◇長崎県 大塚ケイ子 小田サチ子 谷村 令子 下村 綾子
- ◇宮崎県 二之宮秀一 黒木 三子 西川美佐子 緒方小夜子
- ◇鹿児島県 重 昭夫 中野 利美
- ◇沖縄県 具志堅光代

(計 349 名)

### 創立50周年記念講演概要報告

50周年記念式典の第1部として開かれました、上野健爾京都大学名誉教授による「珠算の将来～塵劫記に学ぶ～」をテーマにした記念講演の概要を以下ご報告します。



上野健爾京都大学名誉教授  
(日本数学協会会長)

### 「珠算の将来～塵劫記に学ぶ～」

1627年、寛永4年、吉田光由によって「塵劫記」が出版されました。この時代は江戸初期で商工業の発展した時期でした。まだ、算用数字が使用されていなくて、数の計算にソロバンの使用が求められていました。それまでに「算用記」や「割算書」が出ていました。

このような背景のもと、「塵劫記」は図が多く載っていて、それを見ればソロバンの使い方や、問題の解き方がわかることから、ソロバン・算数の教科書として、永く使われ続けてきました。その内容には、次のようなことが書いてあります。

- ① 両替や利息の計算などお金の計算で「日に日に1文を倍すると30日目でいくらになるか」  
(答え：1,073,741,824文)
- ② 計算の工夫など、面白い計算では「からすぎんと云事」という問題「999羽の鳥が、999の浜で、1羽が999回ずつ鳴くと、鳴き声は何回になるか」(答え：997,002,999回)
- ③ 面積の求め方、体積・容積の求め方、開平・開立のソロバンの求め方など。

以上のように「塵劫記」は生活に必要な数の計算について学習できる教科書でありました。そして、億・兆と云う大変大きな数の計算が載っています。ソロバンの計算でも、大きな数の計算は容易ではありません。では、大きな数の計算を載せた目的は「数を把握する力・数値感覚」を育てること、そしてむづかしい計算を易しく行う工夫を教えることではなかったかと考えられます。位取りの明確なソロバンはその役割を果たすことが出来ました。

しかし、明治以降初等教育に洋算を用いることが決定されたあとの算用数字の普及と共に、筆算による西洋数学が主体となった。一方、ソロバンでの計算は、日常生活に欠かせないことから、それ以降は学校外の塾で学習することになりました。

中国と日本に残るソロバン文化は計算のアルゴリズムと云う豊かな財産をもっている。ソロバンの活用として珠算算法のもつアルゴリズムの学習が考えられる。計算を速くできることをちょっと横において、最大公約数の求め方、開平・開立のアルゴリズムなどその仕組みを学習すること等、複数のソロバンを使った連立方程式の解法まで含めて、中学校まで続けることができ、続けることが望ましい。そして暗算の習得法ならびに理論化が望ましい。誰でも習得できる学習システムを確立する。中国の心算(暗算)の練習問題集に連立方程式の問題がのっていたように記憶しています。6丁のソロバンを頭に浮かべておこなうのではないのでしょうか。(文責：大島弘道)